



デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルの使用方法

この章の内容は、次のとおりです。

- [デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルについて](#), 1 ページ
- [ファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルのライセンス要件](#), 3 ページ
- [ファイルシステムパラメータのデフォルト設定](#), 3 ページ
- [FTP、HTTP、または TFTP 送信元インターフェイスの設定](#), 4 ページ
- [ディレクトリの操作](#), 4 ページ
- [ファイルの使用](#), 7 ページ
- [アーカイブファイルの操作](#), 13 ページ
- [ファイルシステムの使用例](#), 16 ページ
- [ファイルシステムに関する追加情報](#), 19 ページ

デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルについて

ここでは、Cisco NX-OS デバイスのファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルについて説明します。

ファイルシステム

ローカルファイルシステムを指定するための構文は、`filesystem://modules/` です。次の表に、デバイス上で参照可能な各種ファイルシステムの説明を示します。

表 1: ファイルシステムの構文の構成要素

ファイルシステム名	モジュール	説明
bootflash	sup-active sup-local	イメージファイル、コンフィギュレーションファイル、およびその他のファイルを格納するためにアクティブスーパーバイザモジュール上にある内部 CompactFlash メモリ。初期デフォルトディレクトリは bootflash です。
	sup-standby sup-remote	イメージファイル、コンフィギュレーションファイル、およびその他のファイルを格納するためにスタンバイスーパーバイザモジュール上にある内部 CompactFlash メモリ。
volatile	—	スーパーバイザモジュールにある、一時的または保留中の変更のために使用される揮発性 RAM (VRAM)。
log	—	ロギングファイル統計情報を格納する、アクティブスーパーバイザ上のメモリ。
system	—	実行コンフィギュレーションファイルを格納するために使用される、スーパーバイザモジュール上のメモリ。
debug	—	デバッグログに使用される、スーパーバイザモジュール上のメモリ。

ディレクトリ

bootflash: および外部フラッシュメモリ (usb1: および usb2:) にディレクトリを作成できます。これらのディレクトリ間を移動して、ファイルの保存に使用できます。

ファイル

bootflash:、volatile:、usb1:、およびusb2: ファイルシステムにファイルを作成し、アクセスします。system: ファイルシステムでは、ファイルへのアクセスのみ行うことができます。 **debug logfile** コマンドに指定されたデバッグログファイルには、debug: ファイルシステムを使用できません。

FTP、Secure Copy (SCP)、セキュアシェルFTP (SFTP)、およびTFTPを使用して、リモートサーバからnx-os イメージファイルなどのファイルをダウンロードできます。デバイスがSCPサーバとして動作できるので、外部サーバからデバイスへファイルをコピーすることもできます。

ファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルのライセンス要件

次の表に、この機能のライセンス要件を示します。

製品	ライセンス要件
Cisco NX-OS	ファイルシステム、ディレクトリ、およびファイルの使用にライセンスは必要ありません。ライセンスパッケージに含まれていない機能はnx-os イメージにバンドルされており、無料で提供されます。Cisco NX-OS ライセンス方式の詳細については、『Cisco NX-OS Licensing Guide』を参照してください。

ファイルシステムパラメータのデフォルト設定

次の表に、ファイルシステムパラメータのデフォルト設定を示します。

表 2: デフォルトのファイルシステム設定

パラメータ	デフォルト
デフォルト ファイルシステム	bootflash:

FTP、HTTP、または TFTP 送信元インターフェイスの設定

File Transfer Protocol (FTP)、Hypertext Transfer Protocol (HTTP)、または Trivial File Transfer Protocol (TFTP) の送信元インターフェイスを設定できます。この設定により、コピー パケットを転送する際に、設定した送信元インターフェイスに関連付けられた IP アドレスを使用することができます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	configure terminal 例： switch# configure terminal switch(config)#	グローバル コンフィギュレーション モードを開始します。
ステップ 2	[no] ip {ftp http tftp} source-interface {ethernet slot/port loopback number} 例： switch(config)# ip tftp source-interface ethernet 2/1	すべての FTP、HTTP、または TFTP パケットの送信元インターフェイスを設定します。
ステップ 3	copy running-config startup-config 例： switch(config)# copy running-config startup-config	(任意) 実行コンフィギュレーションを、スタートアップ コンフィギュレーションにコピーします。

ディレクトリの操作

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでディレクトリを操作する手順を説明します。

カレント ディレクトリの特定

カレント ディレクトリのディレクトリ名を表示できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例： switch# pwd	カレントディレクトリの名前を表示します。

カレントディレクトリの変更

ファイルシステムの操作のためカレントディレクトリを変更できます。初期デフォルトディレクトリは bootflash: です。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例： switch# pwd	(任意) 現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	cd {directory filesystem:[/module/][directory]} 例： switch# cd usb1:	新しいカレントディレクトリに変更します。 ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの作成

bootflash: およびフラッシュ デバイス ファイル システムでディレクトリを作成できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例： switch# pwd	(任意) 現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 2	cd { <i>directory</i> <i>filesystem:[//module/][directory]</i> } 例： switch# cd slot0:	(任意) 新しいカレントディレクトリに変更します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	mkdir <i>[filesystem:[//module/]]directory</i> 例： switch# mkdir test	新しいディレクトリを作成します。 <i>filesystem</i> 引数では、大文字と小文字が区別されます。 <i>directory</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの内容の表示

ディレクトリの内容を表示できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	dir [<i>directory</i> <i>filesystem:[//module/][directory]</i>] 例： switch# dir bootflash:test	ディレクトリの内容を表示します。デフォルト値は、現在の作業ディレクトリです。ファイルシステム名およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ディレクトリの削除

ディレクトリは、デバイス上のファイルシステムから削除できます。

はじめる前に

ディレクトリを削除する前に、ディレクトリが空白であることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例： switch# pwd	(任意) 現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	dir [filesystem :][//module/][directory] 例： switch# dir bootflash:test	(任意) カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 ディレクトリが空白でない場合は、ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除する必要があります。
ステップ 3	rmdir [filesystem :][//module/]directory 例： switch# rmdir test	ディレクトリを削除します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

アクティブ スーパーバイザ モジュール上のセッションからスタンバイ スーパーバイザ モジュール (リモート) 上のすべてのファイル システムにアクセスできます。この機能は、アクティブ スーパーバイザ モジュールにファイルをコピーしたら、同じファイルをスタンバイ スーパーバイザ モジュール上にも存在させる必要がある場合に役立ちます。アクティブ スーパーバイザ モジュール上のセッションからスタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイル システムにアクセスするには、*filesystem://sup-remote/* または *filesystem://sup-standby/* を使用して、ファイルのパスにスタンバイ スーパーバイザ モジュールを指定します。

ファイルの使用

ここでは、Cisco NX-OS デバイスでファイルを使用する手順を説明します。

ファイルの移動

ディレクトリ内のファイルを別のディレクトリに移動できます。



注意

宛先ディレクトリに同名のファイルがすでに存在する場合は、そのファイルは移動対象のファイルによって上書きされます。

move コマンドを使用して、同じディレクトリ内でファイルを移動することにより、ファイルの名前を変更できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例： switch# pwd	(任意) 現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	dir [filesystem:[//module/][directory]] 例： switch# dir bootflash	(任意) カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	move [filesystem:[//module/][directory /] directory/]source-filename { {filesystem:[//module/][directory /] directory/} [target-filename] target-filename} 例： switch# move test old_tests/test1	ファイルを移動します。 ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数は、64 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数を指定しないと、ファイル名はデフォルトで <i>source-filename</i> 引数値に設定されます。

ファイルのコピー

ファイルのコピーは、同じディレクトリまたは別のディレクトリのいずれかで作成できます。



(注)

dir コマンドを使用して、コピー先のファイルシステムに十分な領域があることを確認します。十分な領域が残っていない場合は、**delete** コマンドを使用して不要なファイルを削除します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例： switch# pwd	(任意) 現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	dir [<i>filesystem:[//module/][directory]</i>] 例： switch# dir bootflash	(任意) カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 3	copy [<i>filesystem:[//module/][directory/]</i> <i>directory/</i>] <i>source-filename</i> { <i>filesystem:[//module/][directory/]</i> <i>directory/</i> } <i>target-filename</i> 例： switch# move test old_tests/test1	ファイルをコピーします。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>source-filename</i> 引数は、64文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。 <i>target-filename</i> 引数を指定しないと、ファイル名はデフォルトで <i>source-filename</i> 引数値に設定されます。

ファイルの削除

ディレクトリからファイルを削除できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	dir [<i>filesystem:[//module/][directory]</i>] 例： switch# dir bootflash:	(任意) カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	delete { <i>filesystem:[//module/][directory/]</i> <i>directory/</i> } <i>filename</i> 例： switch# delete bootflash:old_config.cfg	ファイルを削除します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 <i>source-filename</i> 引数では、大文字と小文字が区別されます。 注意 1つのディレクトリを指定している場合、 delete コマンドではディレクトリ全体とその内容すべてが削除されます。

ファイル内容の表示

ファイルの内容を表示できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	show file [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory/</i>] <i>filename</i> 例 : switch# show file bootflash:test-results	ファイルの内容を表示します。

ファイルチェックサムの表示

ファイルの整合性をチェックするチェックサムを表示できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	show file [<i>filesystem:[//module/]</i>][<i>directory/</i>] <i>filename</i> { cksum md5sum } 例 : switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum	ファイルのチェックサムまたは MD5 チェックサムを表示します。

ファイルの圧縮および圧縮解除

Lempel-Ziv 1977 (LZ77) コーディングを使用してデバイス上のファイルを圧縮および圧縮解除できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	dir [<i>filesystem:[//module/]directory</i>] 例： switch# dir bootflash:	(任意) カレント ディレクトリの内容を表示します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。
ステップ 2	gzip [<i>filesystem:[//module/][directory/] directory/]filename 例： switch# gzip show_tech</i>	ファイルを圧縮します。ファイルが圧縮されると、.gz サフィクスが付けられます。
ステップ 3	gunzip [<i>filesystem:[//module/][directory/] directory/]filename.gz 例： switch# gunzip show_tech.gz</i>	ファイルを圧縮解除します。圧縮解除するファイルのサフィクスは、.gz である必要があります。ファイルが圧縮解除されると、サフィクスは .gz ではなくなります。

ファイルの最終行の表示

ファイルの最後の行を表示できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	tail [<i>filesystem:[//module/][directory/]filename</i>] [<i>lines</i>] 例： switch# tail ospf-gr.conf	ファイルの最後の行を表示します。デフォルトの行数は 10 です。有効な範囲は 0 ~ 80 行です。

ファイルへの show コマンド出力のリダイレクト

show コマンドの出力を、bootflash:、volatile:、またはリモート サーバのファイルにリダイレクトできます。また、コマンド出力のフォーマットを指定することもできます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	terminal redirection-mode {ascii zipped} 例： switch# terminal redirection-mode zipped	(任意) ユーザセッションに対して show コマンド出力のリダイレクションモードを設定します。デフォルトモードは ascii です。
ステップ 2	<i>show-command > [filesystem:[//module/][directory]] [[directory /]]filename</i> 例： switch# show tech-support > bootflash:techinfo	show コマンドからの出力をファイルにリダイレクトします。

ファイルの検索

特定のストリングで始まる名前を持つファイルを現在の作業ディレクトリとそのサブディレクトリで検索できます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例： switch# pwd	(任意) 現在のデフォルトディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	cd {filesystem:[//module/][directory] directory} 例： switch# cd bootflash:test_scripts	(任意) デフォルトディレクトリを変更します。
ステップ 3	find filename-prefix 例： switch# find bgp_script	指定したファイル名プレフィックスで始まるすべてのファイル名をデフォルトディレクトリとそのサブディレクトリで検索します。ファイル名プレフィックスでは、大文字と小文字が区別されます。

アーカイブファイルの操作

Cisco NX-OS ソフトウェアはアーカイブファイルをサポートしています。アーカイブファイルを作成したり、既存のアーカイブファイルにファイルを追加したり、アーカイブファイルからファイルを抽出したり、アーカイブファイル内のファイルのリストを表示したりすることができます。

アーカイブファイルの作成

アーカイブファイルを作成し、アーカイブファイルにファイルを追加できます。次の圧縮タイプを指定できます。

- bzip2
- gzip
- 未圧縮

デフォルト値は gzip です。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<pre>tar create {bootflash: volatile:}archive-filename [absolute] [bz2-compress] [gz-compress] [remove] [uncompressed] [verbose] filename-list</pre> <p>例 :</p> <pre>switch# tar create bootflash:config-archive-gz-compress bootflash:config-file</pre>	<p>アーカイブファイルを作成し、アーカイブファイルにファイルを追加します。ファイル名は英数字で指定します（大文字と小文字は区別されません）。最大文字数は 240 です。</p> <p>absolute キーワードは、先頭のバックスラッシュ文字 (\) を、アーカイブファイルに追加されたファイルの名前から削除しないことを指定します。デフォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。</p> <p>bz2-compress、gz-compress、および uncompressed のキーワードは、アーカイブにファイルを追加するとき（または後で追加するとき）に使用する圧縮ユーティリティと、ファイルを抽出するとき使用する解凍ユーティリティを決定します。アーカイブファイルに拡張子を指定しない場合、デフォルト値は次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • bz2-compress の場合、拡張子は .tar.bz2 です。 • gz-compress の場合、拡張子は .tar.gz です。 • uncompressed の場合、拡張子は .tar です。

	コマンドまたはアクション	目的
		<p>remove キーワードは、アーカイブにファイルを追加した後に、Cisco NX-OS ソフトウェアがファイルシステムからこれらのファイルを削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、ファイルがアーカイブに追加されるときにファイルをリストすることを指定します。デフォルトで、ファイルは追加されると一覧表示されます。</p>

アーカイブファイルへのファイルの追加

デバイス上の既存のアーカイブファイルにファイルを追加できます。

はじめる前に

デバイス上でアーカイブファイルを作成しておきます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>tar append {bootflash: volatile:}archive-filename [absolute] [remove] [verbose] filename-list</p>	<p>既存のアーカイブファイルにファイルを追加します。アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。</p> <p>absolute キーワードは、先頭のバックスラッシュ文字 (\) を、アーカイブファイルに追加されたファイルの名前から削除しないことを指定します。デフォルトでは、先頭のバックスラッシュ文字は削除されます。</p> <p>remove キーワードは、アーカイブにファイルを追加した後に、Cisco NX-OS ソフトウェアがファイルシステムからこれらのファイルを削除することを指定します。デフォルトでは、ファイルは削除されません。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、ファイルがアーカイブに追加されるときにファイルをリストすることを指定します。デフォルトで、ファイルは追加されると一覧表示されます。</p>

次に、既存のアーカイブファイルにファイルを追加する例を示します。

```
switch# tar append bootflash:config-archive.tar.gz bootflash:new-config
```

アーカイブファイルからのファイルの抽出

デバイス上の既存のアーカイブファイルにファイルを抽出できます。

はじめる前に

デバイス上でアーカイブファイルを作成しておきます。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	<p>tar extract {bootflash: volatile:}archive-filename [keep-old] [screen] [to {bootflash: volatile:}[/directory-name]] [verbose]</p> <p>例 :</p> <pre>switch# tar extract bootflash:config-archive.tar.gz</pre>	<p>既存のアーカイブファイルからファイルを抽出します。アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。</p> <p>keep-old キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルと同じ名前を持つファイルを上書きしないことを示します。</p> <p>screen キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルと同じ名前を持つファイルを上書きしないことを示します。</p> <p>to キーワードは、ターゲットファイルシステムを指定します。ディレクトリ名を含めることができます。ディレクトリ名は、240 文字以内の英数字で指定します。大文字と小文字が区別されます。</p> <p>verbose キーワードは、Cisco NX-OS ソフトウェアが、抽出されるファイルの名前を表示することを指定します。</p>

アーカイブファイルのファイル名の表示

tar list コマンドを使用して、アーカイブファイル内のファイルの名前を表示できます。

```
tar list {bootflash: | volatile:}archive-filename
```

アーカイブファイル名では、大文字と小文字は区別されません。

```
switch# tar list bootflash:config-archive.tar.gz
config-file
new-config
```

ファイルシステムの使用例

この項では、Cisco NX-OS デバイスでファイルシステムを使用する例について説明します。

スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のディレクトリへのアクセス

次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイルのリストを表示する例を示します。

```
switch# dir bootflash://sup-remote
      4096   Oct 03 23:55:55 2013  .patch/
...
      16384   Jan 01 13:23:30 2011  lost+found/
      297054208   Oct 21 18:55:36 2013  n9000-dk9.6.1.2.I1.1.bin
...

Usage for bootflash://sup-remote
1903616000 bytes used
19234234368 bytes free
21137850368 bytes total
```

次に、スタンバイ スーパーバイザ モジュール上のファイルを削除する例を示します。

```
switch# delete bootflash://sup-remote/aOldConfig.txt
```

ファイルの移動

次に、外部フラッシュ デバイス上のファイルを移動する例を示します。

```
switch# move usb1:samplefile usb1:mystorage/samplefile
```

次に、デフォルト ファイル システム内のファイルを移動する例を示します。

```
switch# move samplefile mystorage/samplefile
```

ファイルのコピー

次に、usb1:ファイルシステムのルートディレクトリから、samplefile というファイルを mystorage ディレクトリにコピーする例を示します。

```
switch# copy usb1:samplefile usb1:mystorage/samplefile
```

次に、カレントディレクトリ レベルからファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy samplefile mystorage/samplefile
```


次に、アクティブ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュからスタンバイ スーパーバイザ モジュールのブートフラッシュにファイルをコピーする例を示します。

```
switch# copy bootflash:nx-os-image bootflash://sup-2/nx-os-image
```

次に、NVRAM の既存のコンフィギュレーションの内容を上書きする例を示します。

```
switch# copy nvram:snapshot-config nvram:startup-config
```

```
Warning: this command is going to overwrite your current startup-config:
Do you wish to continue? {y/n} [y] y
```

copy コマンドを使用して、**bootflash:** ファイルシステムと、FTP、TFTP、SFTP、または SCP サーバの間でファイルのアップロードおよびダウンロードを行うこともできます。

ディレクトリの削除

ディレクトリは、デバイス上のファイルシステムから削除できます。

はじめる前に

ディレクトリを削除する前に、ディレクトリが空白であることを確認します。

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	pwd 例： switch# pwd	(任意) 現在のデフォルト ディレクトリの名前を表示します。
ステップ 2	dir [filesystem :][/ <i>module</i> /][<i>directory</i>] 例： switch# dir bootflash:test	(任意) カレントディレクトリの内容を表示します。ファイルシステム、モジュール、およびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。 ディレクトリが空白でない場合は、ディレクトリを削除する前に、ディレクトリ内のすべてのファイルを削除する必要があります。
ステップ 3	rmdir [filesystem :][/ <i>module</i> /] <i>directory</i> 例： switch# rmdir test	ディレクトリを削除します。ファイルシステムおよびディレクトリ名では、大文字と小文字が区別されます。

ファイル内容の表示

次に、外部フラッシュ デバイスのファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file usb1:test
configure terminal
interface ethernet 1/1
no shutdown
end
show interface ethernet 1/1
```

次に、現在のディレクトリに存在するファイルの内容を表示する例を示します。

```
switch# show file myfile
```

ファイル チェックサム の表示

次に、ファイルのチェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg cksum
583547619
```

次に、ファイルの MD5 チェックサムを表示する例を示します。

```
switch# show file bootflash:trunks2.cfg md5sum
3b94707198aabefcf46459de10c9281c
```

ファイルの圧縮および圧縮解除

次に、ファイルを圧縮する例を示します。

```
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile
...
switch# gzip volatile:Samplefile
switch# dir
 266069      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile.gz
...
```

次に、圧縮ファイルを解凍する例を示します

```
switch# dir
 266069      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile.gz
...
switch# gunzip samplefile
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile
...
```

show コマンド出力のリダイレクト

次に、出力を bootflash: ファイルシステム上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > bootflash:switch1-intf.cfg
```

次に、出力を外部フラッシュメモリ上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > usb1:switch-intf.cfg
```

次に、出力を TFTP サーバ上のファイルに誘導する例を示します。

```
switch# show interface > tftp://10.10.1.1/home/configs/switch-intf.cfg
Preparing to copy...done
```

次に、**show tech-support** コマンドの出力をファイルにダイレクトする例を示します。

```
switch# show tech-support > Samplefile
Building Configuration ...
switch# dir
 1525859      Jul 04 00:51:03 2013 Samplefile
Usage for volatile://
 1527808 bytes used
 19443712 bytes free
 20971520 bytes total
```

ファイルの検索

次に、現在のデフォルトディレクトリ内でファイルを検索する例を示します。

```
switch# find smm_shm.cfg
/usr/bin/find: ./lost+found: Permission denied
./smm_shm.cfg
./newer-fs/isan/etc/routing-sw/smm_shm.cfg
./newer-fs/isan/etc/smm_shm.cfg
```

ファイルシステムに関する追加情報

ここでは、ファイルシステムに関する追加情報について説明します。

ファイルシステムの関連資料

関連項目	マニュアルタイトル
ライセンス	『Cisco NX-OS Licensing Guide』

